

学 校 評 価 実 施 状 況 調

改正学校教育法及び学校教育法施行規則が平成19年12月26日に施行されたことにより、各学校においては、教職員による自己評価を行いその結果を公表することが義務づけられ、併せて保護者その他学校関係者による評価を行いその結果を公表するよう努めるものとされました。
つきましては、各私立学校における学校評価の実施状況等について以下に記入願います。

学校教育法施行規則（抄）
第六十六条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。
2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その実情に応じ、適切な項目を設定し行うものとする。
第六十七条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者（当該小学校の職員を除く。）による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。
[これらの規定は、幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校に準用されています。]

		学校名	常総学院中学校
令和3年度の状況			
1 学校評価の実施状況		※該当項目にチェック	(未実施の理由)
① 教職員による学校の自己評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
③ 第三者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
2 評価結果の公表状況			
① 保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	☒ 実施 ☐ 未実施	学校評議委員会にて公表	
② 広く一般に公表	☒ 実施 ☐ 未実施	ホームページにて公表	
令和4年度の計画			
1 学校評価の実施予定		(未実施の理由)	
① 教職員による学校の自己評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
② 保護者等学校関係者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
③ 第三者による学校評価を実施	☒ 実施 ☐ 未実施		
2 評価結果の公表予定			
① 保護者、学校評議員等関係者にのみ公表	☒ 実施 ☐ 未実施		
② 広く一般に公表	☒ 実施 ☐ 未実施		

※ 令和3年度の公表資料を添付すること。

評価者 : 学校関係者による評価者 : 常総学院高等学校同窓会会長 学校法人常総学院評議委員
飯田 晃久

: 第三者による評価者 : 西根地区 西根1区 有山 武

令和3年度 常総学院中学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	A 十分達成している	- 学習面では、ICT機器の利用やAI型授業の促進を行い、個に応じた学習を展開していることが評価できる。これからのより一層きめ細やかな指導をお願いしたい。 - 挨拶、服装がしつかりしており、生徒指導が行き届いている様子がよくわかる。教育目標であるエリート・リーダーの育成に向けて、社会的なマナーや国際社会における日本の役割等も生徒に考えさせてほしい。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	A 十分達成している	- 教科について、どの教科も学習習慣の確立・基礎学力の定着を目標に努力していることがわかる。英語では少人数制でネイティブの授業を行うなど、4技能習得に向けたカリキュラムが充実している。また、プログラミング教育にも力を入れている点も評価できる。 - 校務分掌では、各分掌が細かく具体的な目標を掲げて、校務を遂行している様子がうかがえる。今後とも継続して行っていく。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	A 十分把握している	各教科・校務分掌において、丁寧に現状分析が行われている。アフターコロナを見据え、ICT機器を活用や、AI型授業の展開などを行い、目標達成に向けて一層の努力を期待している。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	A 策定できている	現状の把握ができしており、明確に改善策を講じていることがわかる。今後とも、各項目においてエビデンスを集約し、より具体性を持った改善策を講じてほしい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

※「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。

令和3年度 常総学院中学校学校第三者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	☒ A 十分達成している	• きめ細かな指導が行われており、社会のリーダー育成に努めていることが伺われる。 • 生徒指導の点においては、挨拶・服装がしっかりしており、指導の徹底が見受けられる。社会的マナーのさらなる向上に期待している。
	B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	A 十分達成している	• 各教科において、小テストなどで基礎学力の定着を図るなど具体的目標を掲げて学力向上に取り組んでいる。 • 校務分掌においては、円滑な学校運営が行われており、学校の活性化に向けての努力が伺われる。
	☒ B どちらかといえば達成している	
	C どちらかといえば達成していない	
	D 達成していない	
3. 次年度への主な課題の把握について	☒ A 十分把握している	• 各教科・校務分掌において、しっかりと現状分析をし、次年度に向けての明確な課題を見つけている。
	B どちらかといえば把握している	
	C どちらかといえば把握していない	
	D 把握していない	
4. 改善方策の策定状況について	☒ A 策定できている	• 現状を掌握しながら改善策を講じていることがわかる。新年度においては方策を確実に実行し、改善に努めてもらいたい。
	B どちらかといえば策定できている	
	C どちらかといえば策定できていない	
	D 策定できていない	

令和3年度 常総学院中学校自己評価表

★5段階評価 A:目標が十分達成された B:ある程度の成果が見られた C:取り組んだ D:取り組んだが課題を残した E:取り組まなかった

目指す学校像 「知育・徳育・体育の円満なる人物の育成」との建学の精神に則り、「自主・誠実・創造」を校訓として掲げ、「文武両道」を基本方針とし、将来は日本及び国際社会に貢献できる人物を育て、真の意味でのエリートを生み出すことを目標とする。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価	
国語	基礎学力の定着と応用力の向上。自学自習力の育成を図る。	各学年に応じた教材の選択や精選とわかりやすい授業展開を心がける。	A	A
		基礎学力定着のために、漢字テストや課題プリント等の工夫をする。	A	
社会	基礎的な知識を身につけさせ日本人として国際社会で通じる人材の育成を図る。	応用・発展力を育成するための適当な教材や課題を精選する。	A	A
		中1は地理分野を学び、基礎知識の習得や系統学習に取り組ませる。	A	
数学	綿密な授業計画をもとに基礎学力の定着と応用力の向上を目指す。	中2は歴史分野を学び、特に京都・広島で現地調査を行い、研究発表を行う。	A	A
		中3は歴史分野の後半と公民分野を中心に、現代社会の基礎的な知識や諸課題解決のあり方を考察させる。	A	
理科	自然や科学に対する関心や探究心を高め、論理的に考える力を育成する。	中1は予習→授業→復習の習慣化と課題提出期限の厳守を徹底する。	A	A
		中2は中1同様学習習慣の確立と発展応用力の向上を図る。	A	
保健体育	体力を鍛え、集団での自己の役割を認識させ、自発的に行動させる。保健知識を習得させる。体育の授業において、怪我等の事故防止に努める。	中3は高1の先取学習を行うと同時に全国模試対策の演習授業を充実させる。	A	A
		中1は、観察、実験技能の習得と興味関心を育てる。	A	
芸術	創造力と芸術の楽しさ、こころ豊かに生きることの大切さを伝える。	中2は、科学的な見方や考え方を養う。	A	A
		中3は、より深い知識の習得と学習方法を身につける。	A	
英語	基本英単語の定着と会話力、基礎学力の向上を図る。	体育の個人技量の向上と集団行動において他人を思いやる心を育成する。	A	A
		保健の授業では視聴覚教材を積極的に取り入れ、興味関心を喚起する。	A	
技術家庭	学習を日常生活に生かし、自立に必要な生活技術の向上を図る。実習中の衛生面、やけどなどの事故防止に努める。	ケガ、事故防止のために準備運動や安全管理に努め、常に気を配る。	A	A
		音楽や美術を通して、感動や作り上げる達成感や豊かな感性を育成する。	A	
総務課	学校行事調整と諸調査、学校要覧、公文書管理等。	中1～中3の3年間を通して授業や文化祭で様々な何かを作り上げる経験させることで創造力を培い、他者の心をも豊かにする表現力を身につけさせ、感性、感受性などを豊かに育てる。	A	A
		中1は美術館見学などを通して美術館賞を積極的にに行い、読み解く力や観察力などを養う。	A	
	表簿類の手配や印刷室の管理、事務用品の管理等を行う。	自国の文化を国内研修で学び、中3はニュージーランド海外研修を通じ、外国の風景や文化を体験させる。	B	A
		ネイティブの授業(1クラス3分制)で英会話を鍛える。	A	
	入学式、卒業式等の式典や父母の会総会等の総括を行う。	本校指定の基本英単語全てを全員が習得するまで根気よく追試験を行う。	A	A
		教科書・補助教材の活用と反復練習で基礎学力定着と応用力を身につけさせる。	A	
	入学式、進級式等の式典関係の運営をとりまとめる。	自立に必要な調理と被服、基礎基本を身に付けさせる。	A	A
		実験・実習の充実を図り、技術の向上を図る。事故防止のため安全管理に努め常に気を配る。	B	
	父母の会総会の役員及び来賓者への連絡や応対を渉外課と協力してとりまとめる。	双方向性のあるコンテンツのあるコンテンツのプログラミング・計測制御のプログラミングを通して、問題解決能力を養う。	A	A
		年間行事計画立案と円滑な実施が可能となるように毎月各分掌と連絡調整を図る。	A	
	全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	茨城県私学振興会関連の諸調査及び回答文書作成を正確かつ迅速に行う。	A	A
		学校要覧作成のとりまとめ業務全般を行う。	A	
		出席簿、学級日誌、教務手帳、指導要録等の発注手配を教務と連携して行う。	A	A
		印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。	A	
		筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	A	A
		入学式、卒業式等の式典関係の運営をとりまとめる。	A	
		印刷室環境美化に努め、印刷用紙の在庫管理や発注を行う。	A	A
		筆記用具やファイル、その他事務用品全般の管理及び発注を行う。	A	
		入学式、卒業式等の式典や父母の会総会等の総括を行う。	A	A
		全体行事全般について各分掌間との連携を図り円滑に運営できるよう努める。	A	

ICTを活用した学習指導の充実を図る。生徒からの振り返りの回収を定期的に行い、指導に活かしていく。教科横断等を充実させる。

思考・判断の力を育てるために、授業内での問題演習の充実。そのためのALの促進。

基礎学力を定着させつつ、応用力も養成する。

感染症対策に配慮した実験・実習の実施
画像、映像教材を利用した学び
双方向アプリケーションを利用したALの

体育分野での個人的技能の向上と保健分野の視聴覚教材のさらなる活用。
パワーポイントやデジタル教科書の導入などICTの活用。

芸術分野に興味関心を持たせる。芸術に理解のあるグローバルな人材育成。

中学課程の基本内容を定着させ、英語を使って積極的にコミュニケーションをすることができている生徒の人数を増やしていく。

ライフイズテック教材を使用し、HTML・CSS・JavaScriptそしてPythonに触れ高校での情報につなげる。

年間行事予定等を参照し、3カ月前を意識して行動する。
事務処理や文書処理で正確な作業を行う。

変更が多いので、変更しに臨機応変に対応し、連携して、周知する。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方針 円滑な運営方法の検討。
渉外課	父母の会総会や父母の会各支部活動の活性化。	父母の会総会や学級懇談会への保護者の参画を呼びかける。 父母の会各支部総会の参画増加のための資料作成や講演内容の検討に努める。	A A A	
	父母の会役員会や後援会会議等の補助。	父母の会主催のオンラインでの活動の準備・参加を呼びかける。 父母の会正副会長会議や後援会等の事前準備及び会議運営の補助に努める。	A A A	
	父母の会広報活動。	父母の会及び教職員、懇親会などの準備や手配に協力する。	A	
		父母の会新聞や父母の会各支部だよりの取材や編集、発行業務を支援する。	A	
			A	
施設環境課	教育施設全般の管理にあたる。	机、椅子、教卓、教壇、黒板、掲示板などの教室備品の管理と整理を行う。 校内外の清掃活動の徹底と学校環境の整備・美化に努める。	A A A	学校備品のきちんとした管理・清掃作業の徹底を通して、学校環境の美化・向上に努める。 各教室の机、椅子の交換を速やかに進めていく。
	省エネ、防災活動の徹底。	清掃用具の管理や不足分の調達、その他必要な物品等の購入を検討する。 年間2回の避難訓練の計画を立案し、実行する。	A A A	
	清掃状況確認及び学校見学会、入試関係の諸準備手配。	各種警報装置や防火管理設備の点検を定期的に行い万が一に備える。 照明器具の省エネに努めると同時にエアコンや加湿器フィルターの清掃を定期的に行う。	A A A	
		各教室やトイレ、特別教室などの常日頃から整理整頓を徹底させる。	A	
		各教室の机や椅子、その他不具合のある備品の交換や修理を計画的に行う。 学校見学会、本校入試会場準備の際の清掃の指示及び最終確認作業。	A A A	
生徒指導課	規律ある落ち着いた学校の雰囲気作り。	学校生活の上で不要な物品の持ち込み禁止。携帯電話持ち込み許可制、校内使用禁止の徹底を図る。 授業開始のベルが鳴る前に着席する「ベル着」や授業中私語禁止の指導徹底を図る。	B A A	学校内での生活指導強化の他、学校外での服装・マナーなど、生徒の意識向上を図る。自ら率先して挨拶や声掛けができるように声掛けを実施する。校外、校内での危険回避能力を身に付け、行動できるようにする。
	父母の会との連携を図り、問題解決にあたる。	全員皆勤を目標に毎日学校に登校し、勉強に取り組み姿勢を指導徹底する。 父母の会と連携し、各支部単位で祭補導や列車指導、バス指導などを展開する。 制服検討委員会、給食検討委員会、学年検討委員会等で学校との連携を図る。 父母の会各支部総会での生徒指導関連の情報交換や相談会の実施。	A A A A	
	心の教育の充実。	「あいさつ運動」の展開。 社会のルールを守ることや他人への思いやりの大切さを徹底指導する。	A B A	
	生徒会活動の活性化を図る。	消火活動や事故防止活動、その他いわゆる『善行』に対する意識の高揚を促す。 生徒会が企画運営する学校行事に関する支援や工夫をアドバイスする。	A A B	
		生徒会予算編成・執行に関する業務を正確・迅速に行えるよう支援する。 生徒会誌「常総」の編集を支援することで伝統とプライドを持たせる。 各サークル活動の予算を調整し、円滑な活動ができるように予算を配分する。 野球応援等に積極的に参加するように呼びかけることで母校愛を高める。	A B A B	
特別活動課	サークル活動の活性化を図る。	新入生歓迎会で生徒会やサークル活動を紹介し、本校への帰属意識を高める。 常友祭準備から後片付けまで一連の運営を支援し創意工夫の力を育てる。 吹奏楽部や外部団体による芸術鑑賞会の企画立案を計画的に取り組む。	A A A	新型コロナウイルス対策を受けてICTの活用が不可欠になり、常友祭などの活動が制約されないように生徒会役員、生徒中心にさらに精力的に活動できるようにする。また、個人情報保護法の観点からも注意をして活動をしていくように指導徹底を行いたい。
	新入生歓迎会、常友祭、芸術鑑賞会等の諸行事を統括する。		A A	
			A	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
保健相談課	保健衛生管理に努める。	常に洗面所にハンドネット液、石鹸の有無を確認し、衛生管理に努める。 常時換気や手洗い、うがい、アルコール消毒等を励行し、感染症予防に注意させる。 施設環境課と連携し、教室や廊下の清掃を徹底し清潔な環境を保持する。	A A B	新型コロナウイルス感染症を含めた、感染症予防対策の徹底。生徒及び教職員の健康状態の把握を行い、感染状況の把握や対応をしていく。また、個々に合わせた対応をしていく。保健だよりや掲示等で、時期にあった情報が伝えられるように環境をする。
	生徒の健康管理。	定期検診やその他マラソン大会などで問診を行い、健康に留意させる。 生徒及び保護者に「保健だより」を定期的に発行し、時期にあった情報をつたえる。 さまざまな病気や注意すべき事例を保健室前に掲示し、注意を促す努力をする。	A A A	
	教育相談の実施。	体の病気や精神的な悩みについて相談する機会を設ける。 悩みのある生徒は担任・学年・管理職等と連携し、的確な対処を相談する。 専門医へ相談することを促したり、適切なアドバイスを行うように努める。	A A A	
	授業時間の確保に努める。	年休出張等は事前に変更し、突発休は当日授業補填を100%確実に行う。 毎年、学校行事の見直しを図り、出来る限り授業時間の確保に努める。 生徒及び教員にとって、能率的で公平な時間割編成を行うよう努力する。	A A A	適切な学習指導の実施に向けて、教育課程・授業内容(シラバス)検討、見直しを進めていく。また、学習の進度や指導方法について随時確認をする。
	教務課 適切な教育課程の編成とシラバスの完成に努める。	新しい学力観の涵養を目指した中高6力年の教育課程を編成する。 中高6力年(中高一貫コース)のシラバスを編成する。 生徒の学力に応じた教材とその進度及び深度計画を毎年見直すことに努める。 教科会議を中心に各教科内で授業内容の綿密な打合せを実施する。 フレッシュマン研修制度を利用し、授業方法の改善をころがける機会を与える。	A A A A B	
学習指導課 ・ ICT教育課	教員の研修体制の確立(校内ICTの活用とAL型授業の普及など)	教員に対して、外部の研修への参加案内を行ったり、報告内容を共有したりするなど研修体制を整える。 学習指導課主催で教員研修会を実施し、教員が研修できる環境を提供する。 年間を通して特講の実施状況や回数、内容等の記録を統括する。	A B A	模擬試験の成績を通じて過年度比較を行い、教科毎に何を取り組んでいけばよいのかを提言できるようなシステムを構築していく。
	放課後や夏期休業期間中の特講授業や補習授業の計画・立案。	夏期休業期間中の前期、後期の特講授業や補習授業の各学年間の調整を行う。 夏休み中の各学年行事や野球応援などに臨機応変に対応できる体制を整える。	A B	校内ICTの活用とAL型授業の普及に努め、よりよい学習体制を構築する。
	新入生のための指導計画を立案。	新入生のための事前指導計画や教材内容の選定など調整を行う。	A	
	読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	新刊書の中から、生徒に是非読ませたい本を教員が選択し、購入に努める。 生徒から購入希望本のリクエストを募集し、可能な限り購入に努める。 文系・理系のジャンルで生徒が選択しやすいように本の配置を工夫する。	A B A	図書室を利用して本を読むという生徒が少ない。図書委員を通じて、読書推進に努める。
	図書館課 朝及び夜間図書館を利用した学習習慣の確立を目指す。	朝7:30より、さらに放課後から夜9:45まで図書館を開放し自学自習の場とする。 図書館内では私語を一切禁じ、黙々と集中して勉強する態度を育成する。 学習上の疑問について、夜間図書担当者には応じることに努める。 将来について考えさせる進路講演会や学年行事等への積極的参加を支援する。 将来を真剣に考えるための資料や図書類を充実させ自由に閲覧できるようにする。 探究学習を行い、生徒間で共通理解を図る。	A A A A A	
進路指導課 ・ キャリアデザイン課	高い志を持つ一人一人に対応した進路指導の充実を図る。	授業が大切であることを認識させるために、的確な進路情報を発信する。 学年と連携し、生徒の家庭学習実態を把握し、担任の個別指導に役立てる。 学年と全国模試の年間実施時期及び回数等を調整し、学力向上を支援する。 生徒が志望校を考える資料として『大学合格体験記』を三者面談時に配布する。 父母の会総会、学年別進路講演会、父母の会支部活動等において情報を提供する。	A B A B B	学年主導の進路指導から進路指導部主体の指導へと移行し、今まで学年で行ってきた指導の良い点をまとめ生徒に最大限に還元させていくシステムを創っていく。探究学習と進路指導が相乗効果を生むような方策を考えていくことが課題
	授業を中心に主体的な学習習慣を確立させ、学力向上を図る。		A	
	進路情報の生徒・保護者への提供に努める。		B B	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価	次年度(学期)への主な課題・改善方策
情報処理課 ・ 情報システム課	個人情報保護法遵守と校内の情報処理の推進役を果たす。	校内LAN、インターネット環境の保守管理に努める。 学校関連のデータや個人情報情報の機密保持に細心の注意を払う。	A	生徒用ChromeBookを貸与という体制から保護者購入という体制に変更。生徒用WindowsPCのリース切れに伴うPC環境の見直し。電子黒板や生徒用PCの修理やメンテナンスの手順を改訂し、よりスムーズな管理運営を行う。
	教職員の意見に耳を傾け、使いやすいVOA環境を構築する。	定期試験成績処理システムの運用を円滑に行う。	A	Teams、クラウドを用いた教員間の情報共有が活発化していることから、校内セキュリティポリシーの徹底、講習会の実施を継続し、教員の情報リテラシーの向上を図っていく。
	入試業務及び在校生の個人情報管理。	生徒検索システム、電子カルテ、インターネット利用記録等のシステムの運用を図る。 模試の過去問をLAN上に公開し入学入試対策の利用に役立てる。	A	
		入学試験受験者名簿の作成や事務手続きに必要な個人情報を取りまとめる。 新入生及び在校生の住所や連絡先などの個人情報を一括して管理する。	A	
		進路指導課や同窓会と連携し大学進学先や現住所の把握に努める。	B	
入試広報課		英語教育 (CE) について、取り組みや生徒たちの様子を積極的に紹介する。	A	公立中高一貫校増加に伴い、単願者の獲得はもちろぬ。第1志望校の入試に近い形式を選択してもらえよう。学習塾との連携をさらに強化していく。また、進学先の選択肢にあげてもらえるように、塾での説明会開催を依頼する。今年度はホームページの更新スピードを上げることができたが、写真データの管理がきちんとできていない。ホームページ用に撮影した写真もきちんと行事写真として管理することを徹底するとともに、引き続き写真や動画撮影の協力を先生方にしていける。ICT環境の充実に伴い、より具体的な活用例をアピールしていく。
	学校教育活動のアピールと入試制度の周知徹底	探究フィールドごとの活動について、取り組みや生徒たちの様子を積極的に紹介する。 ICTを活用した教育活動について、取り組みと学習環境の充実を紹介する。 ホームページの充実を図り、学校生活の様子や入試情報をスピーディーに更新する。	A B A	
		模試成績や検定試験の結果・入学時の成績と合格大学を明示し、成績の伸びと他校との差を紹介する。 入試ごとの特徴を紹介し、単願者とともに併願者の獲得にも努める。	A A	自律に向けては課題が残る。基本的な生活習慣は身につけている。保護者との連携を密にすることで、早期に課題点を発見し対処することができている。学習姿勢は全体的に良好。主体的な学びへの具体的な方法と雰囲気づくりへの工夫が来年度の引き継ぎ事項である。
	中学1年	「積極的変革」をスローガンに、自分の習慣や考え方を積極に見直し、より良い成果に向け挑戦する姿勢を育てる。	A	
		学年集会を定期的に開催し、学年生徒全体の共通理解を図る。 職員間で生徒の様子を細かく共通理解し、個に応じた指導を心がける。 学校と家庭の連携を重視するため、連絡を密にして共通理解を図る。 基礎的・基本的な知識の定着にむけ自学ノートの有効的な指導を行う。その上で、学年教師で評価を共有する。 セルフチェックを行い自己管理をふり返らせることで、主体的に学校生活に臨もうとする姿勢をつくる。	B B B A B	コロナ禍での自宅学習が、何度かあったことで生活習慣を確立させている。運動も制限されたので、自治的な活動からの成長も想定したところまでは届いていない。個に応じた学力の向上については、引き続き工夫して取り組んでいきたい。
中学2年	「自分たちの手で自立」をスローガンに、生活、学習両面での生徒の自立を目指していく。	基本的な生活習慣を確立させる。 自治的な活動を通して、自分たちの手で運営する力を養う。 英検・漢検、数検等の資格取得を推進するなどして、基礎学力の徹底を図る。 学習進度に合わせた学習の仕方や学習の内容を考えさせ、自らの課題を見つけて解決していこうとする姿勢を培う。 職業について学習する機会を設け、自分の将来について具体的に考えさせる。 個別に面談を随時行うことにより、生徒一人一人の自立を促す。	B B B A A A	コロナ感染症対策でできなかった行事を翌機として、高校生としての自律する意識づくりと、課外活動と学習活動の両立を図る。学習面では、今年度で学んだ高校課程の定章を目標とする。学校生活をより充実させるために、探究活動をスタートさせると同時に、進路に関する企画を進め、文理選択を考えさせていきたい。
中学3年	「勇往邁進」を学年スローガンとして、困難にもひるまず、自分の目的・目標に向かい、ひたすら前進し、自身の持てる能力を最大限に発揮させる。	中学最高学年として模範となる生徒の育成をはかる。 学校生活において友人と励まし競いあう中で自分自身を高めさせるよう指導する。 学習面で高校課程に移るため基礎事項の定着を目指す SDGsと地域創生をテーマに探究学習を通して地元愛を育てるとともに、国際人としての視点を考えさせる。 学校生活に対するモチベーションを高めるために、学校でできる企画をいろいろと立ちあげた。 英検・漢検、数検等の資格取得を推奨し、目標に向かう姿勢を育てる。	A A B A A B	